2　平城京の橋

奈良時代の橋については、従来、文献と絵巻物から類推するのが一般的であった。しかし、文献からは橋の具体的な構造は知ることができず、他方絵巻物は製作年代が平安時代に降る上に、橋は背景のひとつとして描かれるため、やはり奈良時代の橋の構造を精確に知ることは困難があった。今回の調査を含め、近年の平城宮・京跡の調査の進行によって、遺構として橋の検出例が増えている。ここではこれを集成し、都城における橋を考える資料に供しよう。

平城京と周辺の奈良時代の橋遺構は、今回の検出例を含め19箇所に達する（表2）。その内訳は宮内11、京内7、京外1である。すべて木造橋で、橋板など部材を残すのは今回のＳＸ2350と稗田遺跡例のみ。従って欄干など上部構造は多くの場合不詳だが、下部構造は類推可能である。それによると大多数はＳＸ2350と同様に、橋脚上に梁・桁をわたし橋板をおく型であるが、第1次大極殿院東方の橋（7）は橋脚が細く（6㎝）小規模なため、厚板を渡し杭で固定するいわゆる俎(まないた)橋の可能性もある。

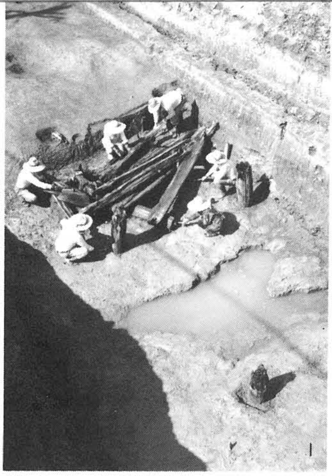
橋脚の据え付け方法には2種ある。今回のＳＸ2350のように橋脚を打ち込む方法と、掘形を掘って橋脚を据えつける方法である。前者が5例に対し後者が15例と多い。掘立方式は打ち込み方式にくらべ優れた点があるのか、別の理由によるのか、検討が必要である。

橋の規模は何によって決るのだろう。桁行方向、つまり橋の長さは流れの幅に制約されることは言うまでもない。では橋幅、つまり梁間を決める規準は何か。道の大小によることは容易に推定できよう。事実、最大の橋は稗田遺跡の下ツ道に架かる橋（19）である。下ツ道は7世紀後半に大和盆地を南北に貫いて設定された幹線道路で、奈良時代は平城京羅城門が北の起点となっていた。稗田の橋は3～4期の造替があるが、奈良時代の橋は最初の2期で、その第1期は幅員18mを測る。第2期は規模を縮少されるがそれでも幅員12mである。京内の例を参照するとこの規模の大きさが明らかになる。

京内では平城宮東南隅、二条大路と東一坊大路の交差点に架かる橋（14）が梁間13.4mと最も広い。二条大路は東大寺に通じる道として特に重要で、この橋には欄干のあったことが近くから出土した瓦製擬宝珠によってわかる。道路の交差点あるいは道路と堀河の交差点に架かる橋の幅に注目すると、この橋の他に今回の九条々間路と東堀河の交差点のＳＸ2350の幅2.7m。左京八条三坊の坪境小路交差点の橋（17）の幅2.6mがある。この3例の道幅と橋の関係をみてみると、14は二条大路の中心に道路幅37.6mの約⅓の規模で設けられており、他の2例についても、ＳＸ2350の橋幅は九条々間路幅の約⅓、17は小路の約½で、ともに橋は道路心に設定されている。一方は条間路、他方は小路の違いがあるが実際の橋幅には差がない。以上から条坊交差点に設けられた橋には、ある一定の決まりがあったのでなかろうか。つまり大路に架かる橋は大路の幅員に応じていくつかランクがあり、条間路、小路に関しては道路幅に関係なく2.7m（9尺）が一つの規準になっていたというもの。この見通の論証には多くの実例が必要である。今後の調査に期待したい。

位　　　　　置	規　模（間）	桁行（m）	梁間（m）	橋脚径cm	残存状況	橋脚据付	道路幅・門との関係	備 考 ・ 出 典
1.九条条間路と東堀河の交差点	5×1	12？	2.7	50〜30	橋脚部材	打込	橋心は路心と一致 梁間は路幅の32％	本書
2.第二次内裏東外郭東方、東大溝と宮内道路の交差点	1×3	4.6	5	24〜28	柱穴橋脚	掘立	橋心は路心北0.65m 梁間は路幅の44％	奈文研年報1965
3.第一次大極殿院東方、ＳＤ3715とＳＦ3742の交差点	1×3	1.85	2.85	10	橋脚	打込	橋心は路心南0.5m 梁間は路幅の56％	橋脚裏側に板を入れ護岸かねる。平城報告 XI
4.第一次大極殿院東方 西大溝ＳＤ3715	1×5	3	8.5		柱穴	掘立		柱間寸法は2.33m（8尺）基準。橋の如く溝に被せた施設。同上
5.　同　　上	1×12	3	26.5		柱穴	掘立		
6.　同　　上	1×2	3	3.6		柱穴	掘立		同上
7.第一次大極殿院東方 南北溝ＳＤ5330	1×2	0.8	1.35	6	橋脚	打込		杭と溝肩間に自然木をいれ護岸する。同上
8.馬寮東方の官衙域内 東西溝ＳＤ5280	1×3	2.8	8.5		柱穴	掘立		奈文研年報1965
9.東院園池の東北隅	5×1	13	3	20	柱穴	掘立		奈文研年報1967
10.東院園池の中央、西岸の掘立柱建物と東岸を結ぶ	3×1	10.8	2.4		柱穴	掘立		同上
11.第1次朝堂院東南隅のやや南、西大溝ＳＤ3715	不明	不明	不明	28〜38	橋脚	掘立		東西に並ぶ橋脚2本検出。56年度平城宮概報
12.第一次朝堂院東方、 ＳＤ3715の技溝	1×2	2.1	3.4	12〜15	柱穴橋脚	掘立		57年度平城宮調査概報
13.東一坊大路と二条大路の交差点、東一坊大路東側溝	1×2	1.2	2.3	18〜24	柱穴橋脚	掘立	橋心は二条大路心の南約15m	二条大路上の東西棟建物ＳＢ3907の西妻正面
14.東一坊大路と二条大路の交差点、東一坊大路西側溝	1×6	3.8	13.4	26〜36	柱穴橋脚	打込？	橋心≒路心、梁間は路幅(37.6m)の36％	3回改修。欄干瓦製擬宝珠出土。年報1966
15.宮の南面西門の正面 二条大路北側溝	1×2	3.6	4.8	28〜38	橋脚	掘立	橋心＝南面西門心	二時期の可能性あり。56年度平城宮調査概報
16.左八条三坊九・十坪間 東西小路南側溝	？×1	不明	1.2		柱穴橋脚	掘立		橋脚9本検出。左京八条三坊発掘調査概報
17.坪境南北小路と東西小路の交差点、東西小路南側溝	？×1	不明	2.6		礎石2		橋心＝南北小路心、梁間は路幅の48％	礎石は橋桁受け。後に木製暗渠に改造。同上
18.左八条三坊九・十六坪間 南北小路東側溝	1×2	1.7	3.3		柱穴	掘立		平城京左京八条三坊発掘調査概報1976
19.稗田遺跡　京造営時掘削の人工河川（京東南隅部から、	（第1期）3×7	19	18	30	柱穴橋脚	掘立	路幅広く西側溝なしか	橋脚平面菱形。流れの方向に一致。
条里の方向に対し約45度の傾きで南西方向に流下）と	（第2期）4×4	17	12	30〜45	橋脚橋板	掘立	橋心は路心西1.2m 梁間は路幅（16m）の	橋脚列は道路の方向と一致。平面長方形。奈
下ツ道との交差点	（第3期）	同上	同上	同上	同上	打込	75％	良県遺跡調査概報1980

tab.2 平城京の橋



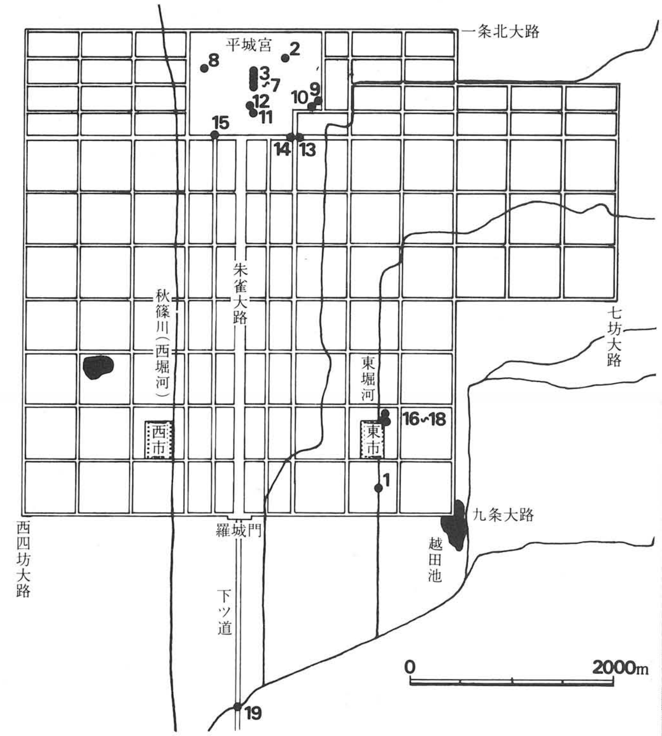
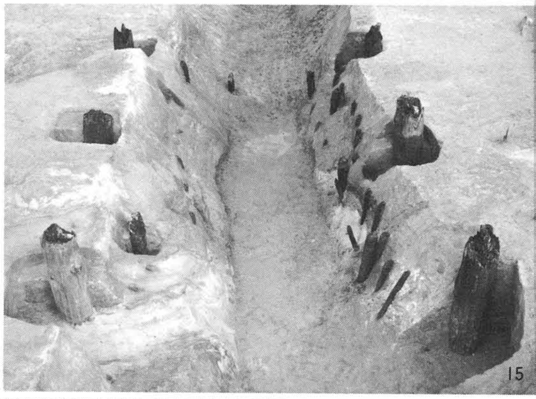
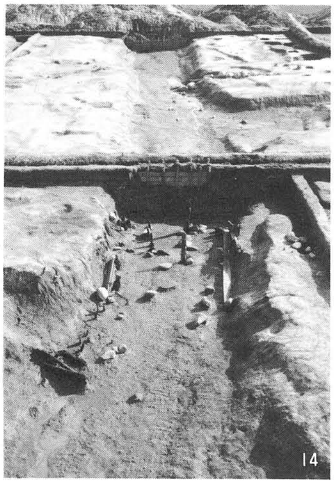
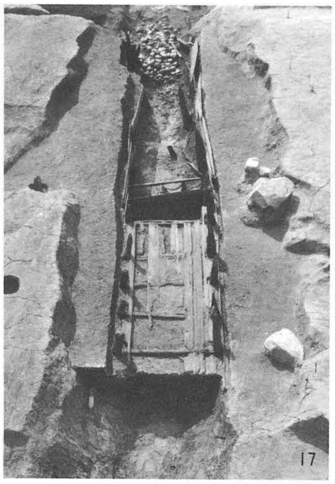



fig. 30 平城京の橋 数字は検出地点